

事務事業評価シート

評価実施年度：平成30年度

上位の施策名称 施策Ⅲ-2-3
文化芸術の振興

1. 事務事業の目的・概要

事務事業担当課長

文化国際課文化振興室長 柳樂ひとみ

電話番号

0852-22-6776

事務事業の名称	芸術文化センター事業	
目的	(1) 対象	県民
	(2) 意図	文化芸術に対する県民の関心が高まる
事業概要	平成17年10月に開館した芸術文化センターにおいて、優れた芸術文化を提供し地域住民及び観光客等の集客が図られるよう、複合施設としての特色も活かしながら様々な事業を実施する。	

2. 成果参考指標

成果参考指標名等		年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	単位
1	指標名	芸術文化センターの入館者	目標値	330,000.0	330,000.0	330,000.0	330,000.0	人
	式・定義	入館者数	取組目標値					
			実績値	393,066.0	421,048.0	359,415.0		
			達成率	119.2	127.6	109.0	-	%
2	指標名		目標値					
	式・定義		取組目標値					
			実績値					
			達成率	-	-	-	-	%

3. 事業費

	前年度実績	今年度計画
事業費(b)(千円)	409,870	428,863
うち一般財源(千円)	191,295	193,357

4. 改善策の実施状況

前年度の課題を踏まえた改善策の実施状況	②改善策を実施した(実施予定、一部実施含む)
---------------------	------------------------

5. 評価時点での現状(客観的事実・データなどに基じた現状)

- センター全体の入館者数は、目標に対して109%の達成率であり、過去5番目に多い入館者数だった。
- 美術館では企画展を4本開催し、石見の戦国武将展は対目標値に対して約146%、11,669人の入館者があった一方で、他の企画展は目標値に届かなかった(達成率66~86%)。
- 指定管理者により、アウトリーチ演奏会等センター外で行う文化事業を35か所で実施した。また圏域で文化活動を担う関係者等を対象にした専門人材育成事業には102名が参加し、舞台技術や演出の向上等に努めた。
- ボランティア団体(延べ114名)と協業して運営を実施した。

6. 成果があったこと(改善されたこと)

- 美術館の石見の戦国武将展では入館者数、入館料ともに目標を上回った。周遊を促す企画により益田市内の他施設では、施設によっては来館者数が通常の倍以上になった施設もあった。
- 芸術劇場では、県民ニースの高い公演等を行うことができ、来場者アンケートでは公演満足度98.2%を達成、また会員の獲得にも繋がった。
- 会館以来初めてとなる大規模な中庭タイル修繕工事が実施された。

7. まだ残っている課題(現状の何をどのように変更する必要があるのか)

①困っている「状況」

- 入館者数が企画展や公演の内容に大きく左右される。
- 修繕が必要な場所や設備等がかなり多く、また修繕規模も大きくなっている。計画修繕だけでなく、緊急修繕も増加する見込みである。
- 石見空港利用促進に繋がる取り組みを求められている。

②困っている状況が発生している「原因」

- 限られた予算の中で、集客が多く見込める企画展を継続的に開催することが難しくなっている。
- 広島・山口に比べ、首都圏からの集客は限定的。
- 開館から10年が経過し、施設、設備が老朽化している。

③原因を解消するための「課題」

- 集客が多く見込める企画展を継続的に開催できる予算の確保。
- 首都圏からの集客も見込める企画・広報の実施。
- 来館者の安全・快適性を確保できる施設・設備管理の実施。

8. 今後の方向性(課題にどのような方向性で取り組むのかの考え方)

- 幅広い年代にアピールできる企画展を開催するとともに、指定管理者と連携し、観覧者の増加につながるPR方法・関連イベント等を工夫していく。
- 指定管理者や観光部局、地域振興部局、その他関係機関と連携し、広島・山口だけでなく、首都圏からの集客も意識した積極的・広域的な企画や広報活動を展開する。
- 企画展の開催回数や質を維持するために事業の効率化や基金の効果的な活用方法を検討していく。
- 管財課や指定管理者と連携し、計画的な修繕を行う。